

# クオド国記

K U A K U O

K O K U K I

公式ビジュアルファンブック

Purple software 最新作

シナリオ

イラストレーター

## 御影 × アサヒナヒカゲ & 克

最強の布陣が描く、文明再興の物語

作中に登場するシーンや購入特典イラストを網羅した  
ビジュアルファンブックが、ここに登場！



ウチド国記  
公式ビジュアルファンブック





西暦 2034 年。  
**“鉄鬼”** という金属生命体が発生し、人類のほとんどが駆逐された。  
 金属製品も使用不可となり、文明や技術すら失われる。  
 鉄鬼の活動がゆるやかな“隙間”でのみ、人類は生き延びることが出来た。



それから **1000 年後**。  
 ひとりの英雄が、鉄鬼の中核たる存在のひとつを打倒した。

「人類の命運を賭けた戦いは、100 日前に、終わりました」  
 「だから、これから始まる物語には、  
**“希望”** や **“幸せ”**  
 しか残されていません」



そんな時、1000 年前から冷凍睡眠されていた青年が甦醒される。

**青年**——彼が、この物語の主人公となる。  
 彼は、冷凍睡眠の弊害ゆえか記憶喪失だった。  
 自分のことはわからなかったが、しかし、文明や文化などの知識は所持していた。

「わたしたちと、この世界に、希望や幸せを生み出すと約束していただけますか？」

別世界のようなカントで目覚めてしまった主人公。衣食住の保障と引き換えに、彼はカントに文化をもたらしてくれと頼まれる。

彼の物語は、人類の命運を賭けた戦いが終わったあとに始まる。

これは、珍妙な等価生活を謳歌する話であり、喫茶店と貨幣経済の話であり、統治者に必要な資質と努力の話であり、何者でもなかったひとりの少女が、

**夢を抱く** までの話である。

そして——“英雄”の死の真相と、“彼”の正体についての告白だ。



舞台となるのは **「カント」** と呼ばれる国。  
 総人口 800 人の能力者たちが暮らす、和風文明。  
 戦いは終わった、が、生き残るために戦い続けてきたカントの人々は、個性や文化を失っていた。  
 一般住民は皆、狐の面をかぶった **「誰でもない者」** でしかなかった。

「“希望” や “幸せ” って、なんですか？」  
 「わたしたちは、戦う以外になにをすればいいのか、全然、わからないです」





# 目次

## キャラクター&ストーリー

### キャラクター

香姫	006
燈臺	008
霧、雲	010
皇姫	012
鳥、囀	013
冬人、恒、YOU	014
衆、狐面の男、カントの住民たち	015

### ストーリー

共通ルート	016
燈臺ルート	035
霧&皇姫ルート	041
香姫ルート	046
エクストラエピソード	059

舞台紹介	068
SD イベント	072
作中歌	076

### エクストラ

イラストギャラリー	080
スタッフインタビュー	082
キャストコメント	086

### 描き下ろしショートストーリー

【皇姫と黒猫様の情話】	098
-------------	-----



キャラクター&ストーリー

はるひめ

# 春姫

食べるか話すかを選ぶなら、  
わたしは、  
まず食べます！



CV: 秋野花  
キャラクターデザイン: アサヒナヒカゲ

158cm / 44kg  
B: 88(F) / W: 56 / H: 82

カントの最高魔力集団「八割」の一之神にして、統治者。賢らしく穏いなお姫様で、カントでは珍しい知性派でもある。もちろん、カントの知性派とは悪対人と同義である。統治者だが権力欲はなく、公平で優しいため民に慕われている。内面に鬱積さや殺しがり屋、毒舌くさかりなどの気質も持つ。



普段着

制服



寝間着

裸

### 表情集



ゆうり

# 優里

私こそが、  
あなたがどこまで行くのかを  
見届けたくもあるのです。



CV: 鈴谷まや  
キャラクターデザイン: 克

161cm / 46kg  
B 85(E) / W 57 / H 84

カントで暮らす一般人。得意でもない少女。春姫の命令を受け、傭の傭衛・世話役をしているが、怪力の能力しか持たず。戦闘能力は最低。カントの常識に慣れない様に対し、一般人のサンプルとして世話役を任せられた事が多い。出資したばかりの傭を目的にしていたが、彼の知識や行動に接近される。最大の理解者となる。



普段着

制服



喫茶店服

裸



表情集



あおい

# 葵

CV:小波すず  
キャラクターデザイン:克

139cm / 31kg  
B 69(A) / W 52 / H 70

お姉ちゃんが敵だって言うのなら……、  
お兄ちゃんも葵の敵だね。



普通着

制服

新調服



制服

新調服

普通着

## 表情集



裸

信はそこで、茜と葵の強さで  
びっくりしてなさい！

あかね

# 茜

CV:蒼乃むすび  
キャラクターデザイン:克

139cm / 32kg  
B 70(A) / W 52 / H 70

“八咫”の二女神を務める姉妹。カント最強の戦力である。  
姉の茜は雷の能力を、妹の葵は雷の能力を操る。  
文字通り雷を巻き起こし妖魔を完膚なきまでに叩きのめすその容赦ない戦いぶりは、まるで“雷神雷神”を思わせる。  
葵は白痴漢やで頭をあまり使わない性格だが、花の茜がったことはせず、容れ見がよい。葵は戦うことを生きがいとする戦闘狂で、意思決定を葵に任せているファンがある。



なつひめ

# 夏姫

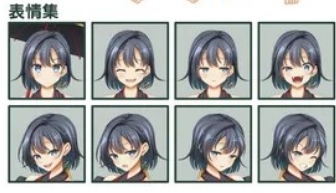
おむすびを食べましょう。  
結ぶという言葉はよいものですね。



CV:小倉結衣  
キャラクターデザイン:アサヒナヒカゲ

158cm / 46kg  
B 93(G) / W 55 / H 83

故人とされているカントの英雄。言葉ですべてを支配し、無から命を生み出す、“言葉”を極めた総裁者。香城の姉であると考えられている。実際には“言葉”の力により、香城という生命を生み出す禁忌を犯していた。母が目覚める100日前、人類にとって最大の敵である黒神の一体と相打ちになる。その刹那“言葉”の力で黒神の意思と融合した彼女は自然と一体化し、全部に近い存在となった。



つばめ

# 燕

CV:遠野そよぎ  
キャラクターデザイン:克

170cm / 55kg  
B 92(G) / W 61 / H 89

“八咫”の六之神で、血の能力者。カントでも珍しい巫憑に使える希少能力者であるため、巫憑で前線に立つことがない。のんびり、おっとり、おとなしい振る舞いしているが、自我人と同等の立場であるため肝は熱まっている。顔の下にちょっとした紫色の胎記がある。



ぺろぺろ舐めてもいいし、ちゅーって吸ってもいい、ですよ



CV:野々村紗夜  
キャラクターデザイン:アサヒナヒカゲ

168cm / 53kg  
B 94(F+) / W 59 / H 86

王宮の地下にある研究所で暮らす博士。古代の発掘品などを調査、研究し、技術の進歩を目指している。無能力者で周囲から疎んじられていたが、香城によって認識されている。研究者気質で、熱中すると視野が狭まったり他人の話が聞かないことも多々あるが、内実、恐ろしく情熱な研究者をしている。



君、私が恐れるくらいに強くなりましたよ。それこそ八剣だ



ふゆひと

# 冬人



CV: 四葉ヨウ

キャラクターデザイン: アサヒナヒカゲ

182cm / 70kg

“八剣”の五之神。春姫と夏姫の兄。強者の血筋に生まれるも、能力的弱者だったため一度は放逐される。その後、努力によって“八剣”の地位に昇りつめた例外的な青年。一見して物腰は穏やかで、八剣の中では常識人だが、自分を鍛えることを至上とし、葵とは異なる方向での戦闘狂。カントには存在しない司法機関に代わり、影で処刑人も務めている。

君は私を殺せるだろうか？



表情集



しん

# 信



CV: —

キャラクターデザイン: 克

177cm / 67kg

主人公。およそ千年の間、冷凍保存されていたとされ、千年前の文明の知識や常識を持ち、“言霊”さえも操る謎めく青年。その正体は、鉄鬼が生み出した“人間のコピー”。適応力が高く合理的で、黒神との戦いを終えたカントに文化や技術を伝えるべく奮闘する。

# YOU



はい。オーナー。  
私には楽にさっさと入り  
可能です。

CV: くすはらゆい

カントの宝である腕輪に搭載された、音声サポートAI。信が身体の修復を試みた際、装備していたこの腕輪の修復も同時に行われて機能が回復した。一部ではあるが、以前に存在していた“第二期、第三期”と呼ばれる旧文明の知識や記録を有している。

カント  
自重しろ

そめ

# 染



普段着

表情集



あたしにとっては  
子どもと着物の両方が  
一番さ。



妊娠時



裸

CV:和央きりか

キャラクターデザイン:克

169cm / 54kg  
B 88(F) / W 63 / H 90

カントで一番の腕利き服飾師。八剣の服も彼女が作っている。芸術やデザインが発展していないカントにおいて、珍しく刺激や変化を求める女性。古代の知識や感性を持つ信と意気投合する。新たな命を授かっており、カントを強襲した鉄鬼との激しい戦いの後に生まれた小さな命が、後にカントの希望となる。

# 狐面の男



……私は口で説明するのが苦手なので、  
身体で覚えてもらいますかね

CV:夏町甚平

キャラクターデザイン:克

180cm / 71kg

狐面の住人のひとり。他の住民と違い、喫茶店で働く優里を熱心に見つめている姿が目立ち、やがて信に声をかけられる。信が鉄鬼と初めて戦った際に声をあげたことを後悔し、信に謝罪した後、自身が優里の父であることを告白する。



カントの一般住人は狐面をかぶり、“何者でもない代替可能な人間”であることを当然のものとして生活している。この時代に生きる人々はそれぞれが特殊な能力を持つが、彼らが何十人束になっても、最下級の鉄鬼一体を打倒することも出来ない。死と隣り合わせの生活を送ってきた彼らは、信や八剣の導きにより、やがて“家族”や“経済”といった文化を得て、人類再興のために力強く生きていく。

# カントの住民たち

# ストーリー紹介

聞こえた鼓の声、そして目覚めた場所はるか遠い未来——。鉄鬼と呼ばれる金属生命体に人類が蹂躪し尽くされた世界で、記憶を無くした青年・信は、“言霊”を操る少女・春姫と出会う。ここに、文明の再起が始まる。



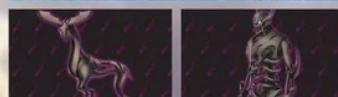
とりあえず、がんばって生き残ってください！



古来種族から目覚めた自身の存在。“言霊”、鉄鬼、カントと呼ばれるこの定規。過去の文脈。記憶の無い青年は、春姫から様々な話を聞かされる。信という名を授かった青年は、カントを守る“八雲”に名を譲ることとなる。



まさか、わたしの他にまだ言霊使いがいるとは思っていませんでした。



これは、おむすびという食べ物で、お米という——







春の夜桜、夏の風、  
秋の月、冬の雪——  
美味しいお酒のお供には  
事欠きません



怪我はさせない♪

春祭と数日を過ごし、八割とまかせながら、カントの  
ことを少しずつ理解する。春祭の節・賞金が「黒時」と  
の戦いに勝利してから100日が経過したら、戦うこと以  
外の文化や文明をカントに広げなければならない。



気がつく。後が自覚めた唇に唇ひかけてきたあの女性  
が目の前にいた。異性を知り尽くす彼女と何故か名前を  
重ねる。彼女の「言葉」なので、二人は常人では到底味わ  
えないすさまじい快楽に耽られていく……。



“あなたの気持ちよさを私も感じる”





黒い炎の腕。舌——それは炎ではなく、実体を伴い続けるエネルギーの奔流。



職人型に突如現れた妖魔。彼は“黒霧”で単独に妖魔に立ち向かうが、力及ばず腕を吹き飛ばされてしまう。もはやこれまでか……その時、彼の身体に寄る“妖魔”の黒影が襲来する。彼は人間であり、妖魔でもあったのだ！



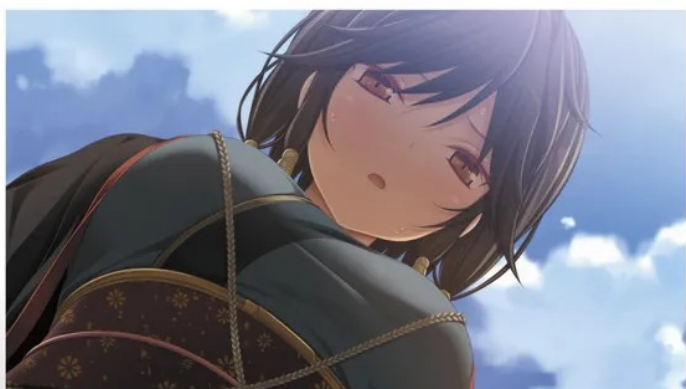
黒風！

白雨！



初めて見る器と美の戦闘。彼が数々百戦した妖魔を、利刃の戦闘で仕留めてしまった。掛け尹のついで目いゝ能力を最大限に發揮し、黒風と雷で黒を撃退するその姿は、まるで雷神と雷神、これがカント二之祇の實力だ。





私は、あなたに好意を抱いていると、思います。



……信じてるかどうかなんてどうでもいい！



僕に好意を抱く恋里。しかしこの世界は最も残酷な能力者同士の交配が繰り返される。そこで僕は恋里と善哉を頼む。恋里に自身の強さを自覚させようとする。加き日の夢——八雲を自衛手段を前に、恋里はついに徳や二之神姉妹の拳をも受け止めるまでに成長を遂げる！





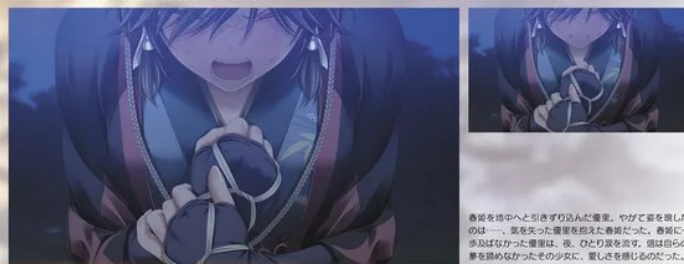
一緒に、  
沈んで、  
ください!!

一緒に、  
沈んで、  
ください!!

優里が春風に戦む曰、「無常」による任性的な制御能力を持つ春風に、優里は家とし穴や地中からの攻撃を駆使した自衛で互角に渡り合う。どんな手を使っても春風を超える――悲劇な少女の心機に春風は――。



おに二回、  
わたしはやりたく  
ありません。



みんなに協力してもらって…、それなのに、私は…っ!

春風を地中へと引きずり込んだ優里。やがて家を倒したのは――。氣を失った優里を抱えた春風だった。春風に一手及ばなかった優里は、後、ひとり涙を流す。誰はらの夢を諦めなかったその少女に、賢さを教めるのだった。



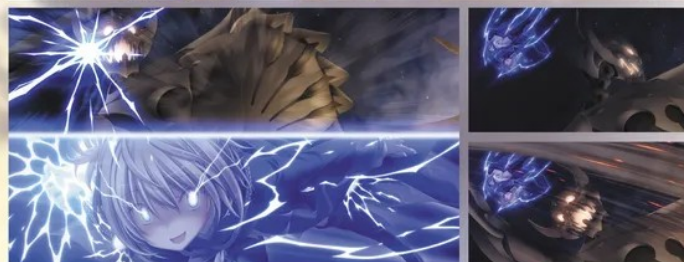
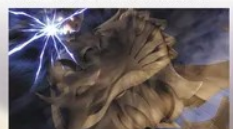
茜も、  
あなたも、  
八剣なのよ。

茜、美と過ごす日々が増えてきた。鉄塊としての信をあえて解離させて戦う茜、そして思接きの川遊び。カント巨獣の戦力である黒々しき家とほころの少女としての美助が交錯する。信に信を寄せつつある姉妹だが……



茜ちゃんと美ちゃん、僕がどちらかとしか子を成せないなら、どちらが相手になるんだろうね？

心解き言葉——夢の世界に現れる女性の“言葉”により、僕は姉妹に思われぬことを口走ってしまふ。忘れぬ心、わずかに生じた願い……二之剣姉妹の運命がまきならぬまま、死鬼と争はれる因果がカントを強奪する！



# STORY

瀕死の重傷を負った暁。住民たちの避難は完了したが、いまだ二体の死鬼は健在。かつてないカントの危機に、暁は統治者の座を誰に譲り、ひとり恋を懸けて死鬼を殲滅する覚悟を決める。だが、暁の答えは――



信！ 一緒に剣の動きを止めて！



わたしは今宵、  
この時をもって、  
一之神と  
統治者の座を  
おります



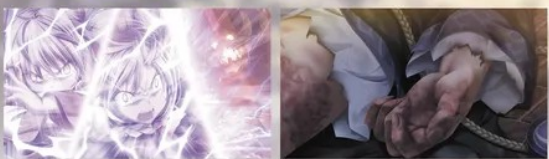
お姉、ちゃんに、っ、ぐ！  
手を出す、な、あああああああ！！



西、統治者やめるわ！



暁たちの静止も聞かず、ひとり飛び出す暁。その時、死鬼が放った圧倒的な出力のレーザーが八剣を襲う！ 暁の乱れで暁を危険に晒した暁は、超常の判断で暁を庇うように暁のバリアを張るが、応戦できず――





覚悟、  
わけてあげる！



誰のとりまきを出さず、死傷を併せてみせる——弱と強は上空へと舞い上がり、最高速で地下攻撃を行う——致命傷の集に転じる。彼の口づけと自らの覚悟を前に、彼は死傷の家を捉える！ その時、治療を終えた英が——！



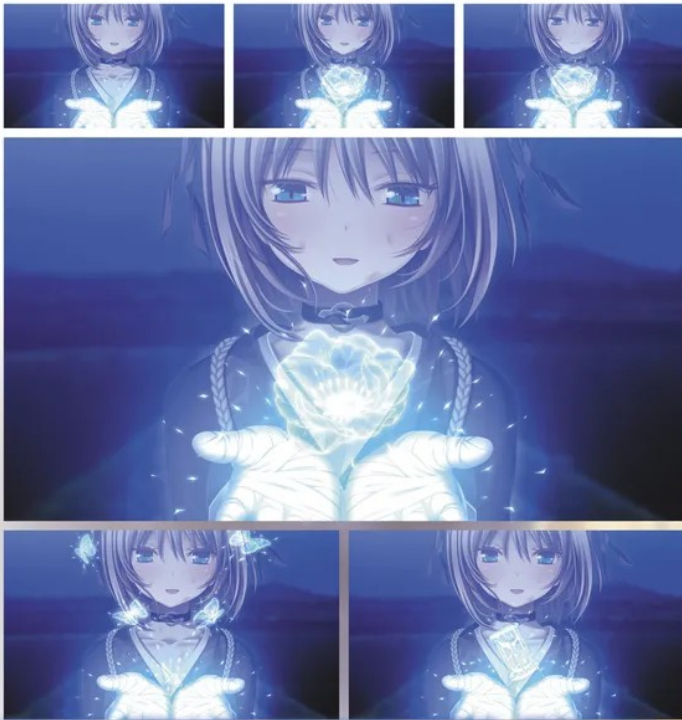
“黒炎” 風よ！



“姉と同じ速さとなり、いきなさい”！

はッ—————!!!





考えたのはね、お姉ちゃんと美の、お兄ちゃんを好きって気持ちを、どうするかってこと。

死鬼との戦いは終わり、かつてない危機は去った。しかし、心乱された美は戦いの後も自らの思いや欲である美への感情を自分に問い続けていた。雷の力で様々な機軸を描く目の前の少女の成長を受け止めた信は――。

## 優里ルート

悪毒で一途な少女・優里の想いを受けた信は、正式に恋仲となる。八剣ではない彼女こそカントの新たな未来を築く存在になってほしいと願う信。そんな彼女と日々を過ごすうちに、とある住民の熱い視線を感じ……？



私、もう、1秒も我慢できないんですよ。



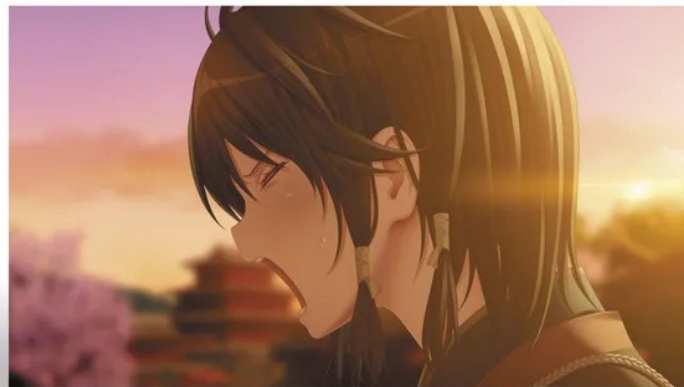
色白を受けた直後、いきなり感電に押し倒された信。カントと旧文明とは男女の倫理観に微妙なズレがある……。無理無理な形になってしまったものの、信はついしがた他人になった彼女との愛ある行動に没頭する。



ああ……！ 信様、信、様、私の、手、  
気持ち、いい、ですか……？



職責の仕事を終ってきたある日のこと。快楽のわずかな  
瞬間を味わって息遣いの身体を流して、突然知った土  
産関係プレイ……。仕事場のまま初めに感じる感覚の裏に徐々に  
に両頬を覚える。



私、お父さんの子どもじゃなかったら、ここに、いなかった！



あの子は、  
私の子なんだ！



職責で息遣いに首を流す男……。それは信様の父  
だった。たった一瞬の手合わせで父の顔を受け止めた  
瞬間。思い残すことは何もないと喉の裏から去ろう  
とした父に対し、息遣いはカントの中心で裏腹な胸中を  
叫ぶ――。



今日は……あなたと一緒に……いきたい、です……。



父の一件を終え、首を垂れる邸人たち、豪華から身体を求めてくる者が多かったが、この日は僅が豊穣を気持ちよくしたいと願望する。表情も声も筋先も、僅の全てに楽しさを感ずる豊穣は、その身を故に委ねる。



お口から、飲んで、  
お腹で妊娠しちゃい、そうな、  
濃くて、重い……。





誰もか誰でもないカントにおいて、個性が芽生え。  
ひとりの少女が夢を叶え。  
愛する男と結ばれました。

信りまー！

カントの歴が文化の再構築に向かって踏み出す所望の歩、それが、信と愛が行う「結婚」だった。「結婚した男女は、振舞を外してもよい——カントの人々が個性を持ってよい時代が、ここに始まったのだ。ドレスに身を包み、仲親や父に華やかな姿を認めることができた貴族の美顔は、誰よりも輝いていた。



## 茜&葵ルート

信の装備する腕輪・YOUが停張した「届くはずのない過去からの通信」：過去を変えることはできない。だが、ひとりでも多くの命を救うことはできないのか？ 信という恋人を得て、二之姉妹はさらなる成長を遂げる。



もっと、ね、信……おちんちん、乱暴に、ん、しちゃっても、いいのね……。



恋仲になったからには、守護を解すための石敢——カントの文庫はそうして人集を賑々と繋いで来た。初めは信と美はまなな美……、カント最強の姉妹が自らの殻を剥き乱れる姿に、信は興奮を隠すにはいらなかった。



ふ、ああ!? は、入って、入って、ふあ!?  
指、これ、指、だよ、お姉ちゃん、指、い!?



そこは、ミを控えるための大切な場所……唇と美の輪郭に指や舌を運む。初めての性感に、姉妹は嬌声をあげながら身悶える。指や舌でもこんなだから、指を受け入れることになったら……姉妹の胸は止まらない。

ROUTE



人間であれば、自分の名前を、誰かに呼んでもらいたいもの shouldn't しょう?



貴族は自らのミスでYOUに就いてしまった過去の遺物の件を探り、過去に重要な人物一花を救う術を彼と姉妹に託す。祭の日に手合わせを誓った二人は、過去に生きる一花を「名前」にちなんだある時まで待つことに成功する。



びゅびゅって、あ、出して……！ 茜、子ども、子ども、欲しい、から……！



過去の人間をも愛し、心身ともに大きく成長した茜と美、  
 償はついに、そんな二人の純血を両神に奪う。もはや子  
 を成すことに何の迷いもない、互いの秘卵をこすり合わ  
 せて快楽を得ながら、姉妹は娘に子種を懸ける。



そつよ！  
 4体目の黒神討伐を行うわ！



黒神を倒して「やったー」って喜ぶのは、  
 お姉ちゃんと美と信お兄ちゃんの  
 3人で味わいたいもんねっ

名実ともに最強の組対戦となった美と茜。カントの  
 はるか先、トウナリと争はれる前に黒神が存在  
 したと知った姉妹は、互いに助けあうかその打倒を  
 画策する！ 二人がいる限り、もはや敗北に怯え  
 ることはない。人間の救世主は、要する人とともに  
 新たな伝説を築き上げ続ける。



# 春姫ルート

再起動の兆しを見せる黒神。恐れていた現実を目の当たりにし、信と春姫は鉄鬼の“共振源”を探り、鉄鬼たちを完全停止する道を探る。やがて二人は、妻姫が遺した恐るべき真実と向き合うことになるが……。



黒神を打倒した者。妻姫。春姫と主人の跡であるはずの彼女に、かつて何があったのだろうか？ “共振”の力を始め、生命の禁忌さえも超越できたであろう彼女の眼中には、常人の理解をはるかに超えていた……。

兄さま、私は……戦うことが怖いのです。



我ら護衛隊の定める戦いとは、ただ武力をもって制するという楽な道ではないと知れ！

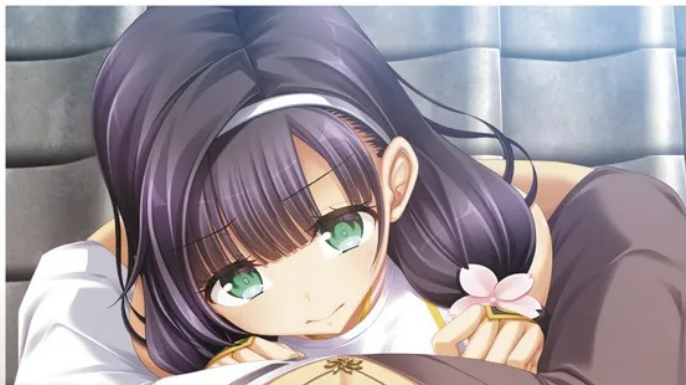


わたしは両親の記憶がありませんので。



透明な口づけ。  
永遠のような一瞬が、過ぎる——。

春姫と過ごす静やかな日々。そんな中、信は“共振”の力で戦うことなく鉄鬼を退ける方法を考へていた。鉄鬼と禁忌の縁はできないのだろうか……？ やがて想いを重ねた二人は、互いの愛を受け入れる決意をする。



もう、嫌だ、嫌だ、よお……！ 本当、は、ほんと、は、もう、誰にも、死んで、欲しくない……！



わたし、わたしはっ、死ねません、でした、っ！



姉・麗に代わってカントを精進してきた香織。笑顔絶やさない彼女だが、胸中は真に悲境に達していた。其の第、そして人類の命運を預かることの重責……。こらえきれず涙を流す恋人を、彼女は優しく抱きしめる。

ROUTE



運しい儀の音楽に舞打たれた香織……。とおもったら、ここはカント。男女の倫理観がズれている。男性の優しさに我慢できる女性などいるはずもないこの世界で、彼は愛する人にひたすら身体を賣られてしまう。



いつもは澄ましたお顔をされておりますのに、意外と、敏感なんですね。





善城の純血を奪つて、「兄様」と慕つ愛する人に自らの全てを捧げ、善城は心も身体も滅亡されるのだった。自らが選んだまどろみの中で、善城は愛道が業神との戦いに向かった100日間の出来事を読み始める。



好き、好き、です！ 善は、兄様が、好き！ 好き！ 愛して、います！



やはり……君にも人は殺せないか。



八剣の中で唯一「人を殺す術」に磨きをかけるを人、そのを人が、鉄塊である徳に刃を斬る。徳が、善城と善城の間にある真実に見ついでしまったがために、その時、徳の戦輪「YOU」から善城の声が届く。



# ROUTE



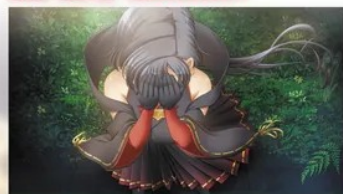
姉さまの手、あたたかい。



兄様、逃げて、しまいましょう！



真実を知り、それでも豊姫が待つ場所へとたどり着いた僕と春姫。しかし春姫は、自らの身や豊姫のことよりも、戦いの途につくであろう事実を伝えていた。豊姫を押し止させれば、愛する人である僕は……

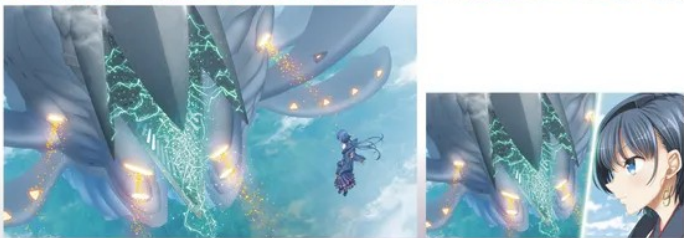
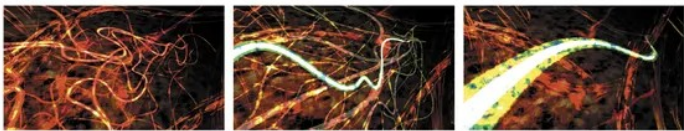


すでに世界に溶け込んでいる私の願いは、簡単なものなら、言葉にせずとも実現するのですよ。



再起動を始める黒神。そして知った春姫の真実……。それは、春姫が豊姫の“音響”で生成された存在であることを意味していた。八咫の眼で妖鬼の猛攻を食い止り、二人は豊姫が待つであろう場所へと進む。





悪業を背きずとも「真道」の能力を喪失する輩は、東神の形を、そして大自神との融合を蒙らし、この世の「真」そのものとした彼女を止めるには、鉄鬼の「其節過」に最終取りかかればならない。僕は勝を決して「其節過」を探り、ついに100日前の真実に辿り着く。



……え？ <……ふ……!?



冷凍睡眠装置の中で眠る信を見た暁は、鉄鬼と人間の「可能性」を感じ、死の瞬間に東神の意志と同化していたのだ。そんな方法でしか人間や鉄鬼を救う道を見出さなかった暁は自らを犠牲する。消えゆく暁を見届け、やがて信の意識も凍れていった――。



なるほど……鉄鬼に、勝たせてあげれば、よかったのですね……。





だから、信じて！ わたしの名前を、もう一度、呼んで！



“共闘”の停止——それは、執着である事が明らかになることを意味していた。泣き叫ぶ春菜のもとに降れたのは、天の恵みで存在が失われたはずの貴城。しかし、貴城がひと時だけ蘇ったことには理由があった。胸に抱いた、ただひとつの想いを達げるために……



貴城が抱いた後悔……。主人への想いを自身の執着で取り、そして主人に斬られること。世界中に散らされた全てを成し遂げ、多度こそ貴城は、春菜と主人——そして、戦い終えたカントに舞い戻った地に希望を託して消えていった。涙しみを拭き、春菜に笑顔が戻る。



“春、抱きしめてくれ”！



夏が終わっても、秋も、冬も、そして君の名前である春も！  
僕と一緒に、この世界を見て回ろう！



はい、どこまでも！



戦いは終わり、カントの人々、そして人類による、文明の復興に向けた長い旅が始まる。僕はこの世界の事実を隠した小説を執筆していた。世界を作り、死を認識し、現世に想いを託した女神と豊饒の生き様にあやかったその物語の名は、「クナド編記」という――。

## エクストラ エッチシーン

シーン鑑賞モードで見ることができない特別なエッチシーンをここで紹介しよう。作中では描かれなかったヒロインたちと僕の“夏のひと時”の数々。燕や鵜といった頼れる仲間たちの乱れた姿まで見られる。鑑賞の内容！



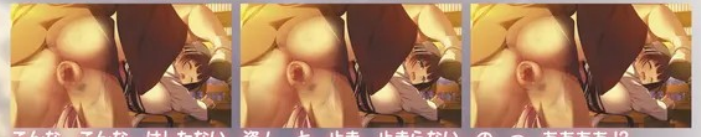
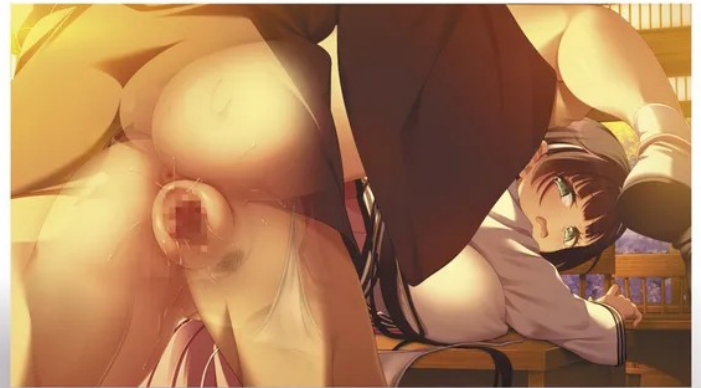
おちんちん、も、身体、も、息も、燃える、みたいに、あ、ああ、熱い……！



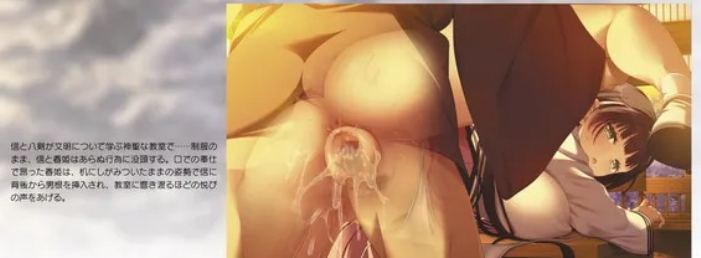
「春姫と一緒に王宮の温泉で入浴したい！」と、わがまま少年のような願望を口走った彼。エッチする気満々だった春姫は、そのままの裸でお風呂エッチ。火照った身体はますます熱くなり、二人の欲望を満たすのだった。



ん、んん、ふっ、ふっ……! はむの、おふひは、ひもひひいえすか……?



こんな、こんな、はしたない、姿! ど、止ま、止まらない、の、っ、ああああ!?



徳と八景が文相について学ぶ神楽は数回で……制服のまま、徳と香保はみらみ行為に没頭する。口での準備で熱った香保は、刺にしがみついたままの家敷で徳に背後から野郎を挿入され、数回に驚き渡るほどの悦びの声をあげる。



そんなに、そんな、指だけで、や、だ、もっと、もっと、ん、んん……!



お姉ちゃん、気持ちよさそ、う、で、あは、あ、ああ、ああ、あ!



羞もいはい道断で地まる、定らなお悪者さんごっこ、  
善之業は自罪を覺せ合、良業を律々に廻らせていく、  
やがて二人の身体に、世の手が、男根がふれる。扱られ、  
ふれられ、挿入され……、未知の快感に脚は身悶えする。

ex. "H" SCENE



おっばい、わたし、おっばい、だけ、で、こ、こんなに、  
気持ち、いい、の、はじめ、で……あ、あ、あ!?



僕の隣の部屋にいる僕は、随分、彼たちの行為の声を聞かされて  
いた。すっかり欲求不満になってしまった僕は、自分にもしてほ  
しいと情におねだりする。探査の影響で全身白帯だらけの僕の身  
体が、髪を帯びていく……。



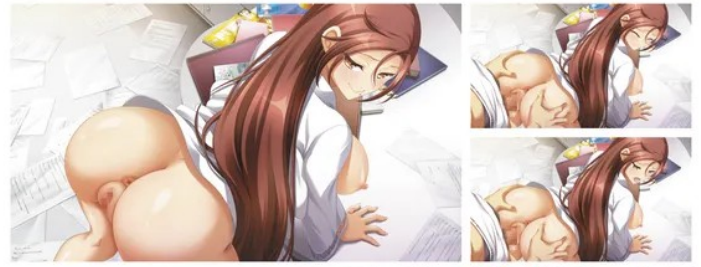
中、奥が、気持ち、い、いい! あ、あ、あ、ふあ!? あ、あああ!



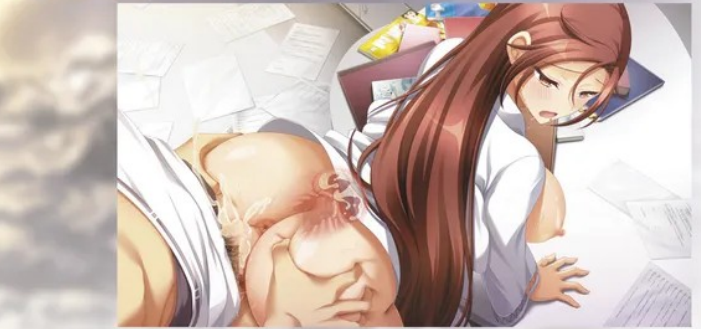
ex. "H" SCENE



こ、こら、少年、し、信……！  
あ、あまり、私のおっぱい、で、遊んで、くれる、な……あ、はっ……！



出して！ 教え、て！ 精子、が、ど、ん、な、ど、ん、な、に、女、に、と、つ、て、気、持、ち、い、い、か……あ、は！



# 舞台紹介

桜や緑の美しさが映える中に、人と怪獣と激しい戦いの備前も深く刻まれているカントの地とその周辺。「ウナド国記」の舞台となったこの世界を、各地の画像とともに振り返ろう。

王宮（外観）



王宮（屋根）



中庭



廊下



主の間



温泉



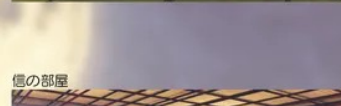
小庭



王宮の道



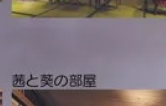
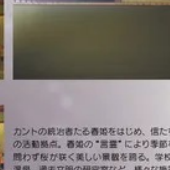
教室



夕方



黒板



カントの統治者たる書生をはじめ、信たちの活動拠点。書生の“書庫”により季節を問わず夜が眠る美しい風景を誇る。学校、道場、遠征文庫の研究部など、様々な施設を備える。

信の部屋



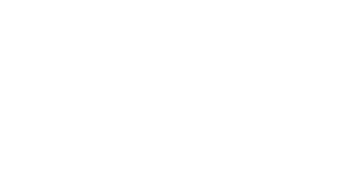
茜と葵の部屋



消灯



天井



職人街



夕方



夜



職人街(屋根)



夕方



夜



染の作業場



夕方



茶屋



夕方



内装



川原



夕方



夜



農地



夕方



夜



丘



夕方



夜



湖畔



夕方



夜



海洋



夕方



夜



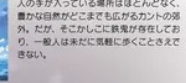
海洋線



夕方



峡谷



夜



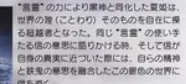
夜



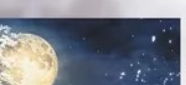
草原



高空



鉄の教室



銀の花園



黒神の足元



千本鳥居



草



草



草



草

# SD イベント

SD イベント原画：こもわた連綿

カントに文明を再生させるべく、日々奮闘する八剣とその仲間たち。船強にケンカに楽しい遊びに……。彼らが巻き起こしたハプニングの数々が、かわいいSD イベントに！



## 自重しろ八剣

かつての文明を学び、知識を広める人材を育つべく“学校”を始めることにした。まずはカントを導く八剣を中心に講義を開始しようと思ったその時……。犬猿の仲の善治と教室でケンカを始めてしまった？

## ……と思ったら土下座！？

善とのカンで教室を破壊してしまった善治は、翌日、すごい勢いで恨に土下座！ 帰れるカントの統治者の構はない様に、その場に居合わせた悪童も思わずドン引き？



## 一心不乱、無我夢中

山嵐のドーナツを興奮で食らう善と美！ 講義の文脈に存在したお菓子のレシピを善治と善人たちに教えたところ、何力すぎてしまったらしい。どんな形に作っても結局は同じ味になるそうだが……。分量間違えてない？



## 突然の指ちゅぽ♡

他人の傷を癒す能力を備える善。戦いの絶えないカントの人々にとって、なくてはならない存在だ。その能力の源となるのが自身の“血”。血に試してみたらおとうと娘を覚えて……なんだかイケナイ光景に！？



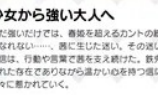
## “書置”の意外な使い方

善治にやられて一歩引けただけ善童は、“奥山の地帯の厚敷は決わゆる”だという様と美。恨が拭けたところ、全く立てなくなってしまう？ “書置”の知恵に善のする様を痛に、なんだか美しそうですね。美さん……。



## 命のゆりかご

カントの再建と新たな未来。自分が守り抜いたその小さな命を母、喜びを分かち合う娘と二人神姉妹。娘の命を繋ぎ止す善子の涙に、母の涙も思わず頬を濡れるのだった。



## 少女から強い大人へ

ただ強いだけでは、善治を超えるカントの統治者にはならない……。善に生じた思い、その思いを察した善は、行動や言葉で善を支え続けた。善鬼から生まれた存在でありながら誰かいいねを持つ善に、善は徐々に離れていく。



**本気の川遊び!**

豊原きくに川に遊びに行こうと二人姉妹を誘った信。夏らしい姉妹とキョッキョフンな時間……。とはならず! なんだこの、すさまじいはいしゃぎっぷりは!? 悪力者が本気で「遊ぶ」ところなる、悪戯きにならない!?



**勇ましい恋人**

恋人同士になった信と雪華。仕事を片付けてデートに出発。初めは雪華は信の表情に〇 だけど雪華をあまりからかなくなると、勇ましい彼女をからかっただけで息が、溢れると……。本気のパンチが飛んでくる!?



**全然勝てない!**

「聞いてかぶってしゃけんぼん。はるか以前の文明から存在する遊び。ところが、美の超反動に信は全く勝てない! いや、ちょっと待って、そもそも信はじゃんけんに出ていないよ!」と……。何かヒミツが!?



**もう隠す必要もないし**

信と八雲に数々の証跡を与えてきた豊原。彼らを疑めた豊原は、存在を隠すことなく信の意思に直接語りかけてくるようになった。信が軌道中のカントを舞台にした物語に、豊原はいろいろ言いたいことがあるよって……?



**カモチャンと春姫ちゃん**

製作陣のためにカントで動いていたカモ、秋葉との戦いに巻き込まれて逃げた。そんな事件も「悪魔」を役立たせ解決。春姫の後ろを歩いて行くカモの群れを眺めて、思わず呆んでしまった。

**キィー! キィー!**

おしよぎて、ついに春姫が壊れた!? 戦でやってきた悪人に助けを求められて至意に向かう。表情をコロコロ変えて奇声をあげる春姫の姿が! いや、よく聞くと、どうやら春姫は「キィー」と叫んでいるようだ……?

**矢態ではないと思うけど?**

信からの告白後、春姫は信の前で大泣きしたことを矢態だと聞いていた。恥ずかしがることじゃないと思うけど……。いやいやいや、周知だったんだし!



SONGS



OP テーマ  
 おうか せんらん  
**桜花千爛**

歌：橋本みゆき  
 作詞：石川泰 作曲：山口たこ

ほらほらと 舞い落ちる 桜  
 花びらは 美しく舞え  
 仮初の 護身でも いいから  
 その姿 忘れないで

未来へと 繋がる先は  
 因果の道 へ廻き  
 光差す 縁とその影は 色濃く 落ちゆく

託された 言葉の重さ 心に 刺さる 縁が  
 輝くたび 思い出される あの日の約束

生きたい命を 過去を 生きる あなたと  
 言葉は 閉じて 誰うろ  
 愛 と生きる 意味

別を超え 必死の出会い  
 弱知らず 砕くれない あなた  
 出会いとは 別れの 数え歌を  
 書き たなく

重なる 剣と 思い出が  
 作り出す 今と 明日になれば  
 言葉に 火を灯す  
 涙を 作り出すから

終われば 君のために

あなたへと 繋ぐ思いは  
 記憶に影 を消とし  
 光指す 方に歩けば 輝炎 消えゆく

生きた証が 砂と 消える 時でも  
 一握に残す 掌  
 だけ 忘れないで

別を止め 願いを絶えば  
 刹那を 消こしたい あなた  
 別れとは 再び 出会うための  
 貴い命 になる  
 重なる 別が 思い出を  
 作り出す 未来 を残すために  
 言葉が 動き出す  
 涙が 閉じ 死

終われば 君を留らす

でも 忘れないで  
 あなたに 分かる ように  
 囁められた 本当の 想いは このまま  
 いたかった

舞い上がる  
 桜吹雪へと  
 降された 本当の気持ち  
 春がほく 散り舞 さえ 懐しい  
 桜の 宿命  
 受け止めた 最後の一枚  
 満杯も 消えかかっている けど  
 次の春が 来た時  
 最初の 一枚だけ

また 受け止めて欲しいの  
 わたしのこと



挿入歌  
**拳恋一擲**

歌：山崎もえ  
 作詞：石川泰 作曲：山口たこ

託される その力  
 青空 仰ぎ見る  
 日差し指す その向こう側  
 あなただけ 見届える 愛が 輝む

でも 今は なにも 言わず  
 これからの 未来が ためされる  
 あなたへの 一撃

砕け散る 欠片から  
 溢れた 輝つかの 想いに  
 気づいて欲しい 勝手に 思い  
 全てを込めて ぶつかっても いいから

託された その家

輝炎 仰ぎ見る

輝らめいた 貴方の影と

遠ざかる 愛が 消えゆく ように

また 会える その 時まで

今までの 過去が 明かされる

あなたから 受け取る愛

輝かれる まま何処へも 置いていくわ

また 明日 会える この

大切な あなたと 過ご したい 幾年の 季節を

千年より 少しの 時を 通った 恋だから

千年分 置てもまだ 足りない 恋なのよ

伝えた 想い 受け止 めてよ

握る手のひら 濡れた汗と 涙が

落ちる前に



挿入歌 ~「アマツツミ」より~  
**コトダマ紬ぐ未来**

作詞 石川泰  
 曲・編曲 田辺トシノ  
 歌 山崎もえ



ED テーマ

## 散るぞ恋しき

歌：浅葉リオ  
作詞：石川泰 作曲：Yuki Nakano

失われた時の中 願い 集がれた  
種やかな日々を 手にし 望んでいた未来は  
あなた たけが 欠けている 灰色の 世界が  
残って ゆく

愛してるなんて 言葉が これほどにも 届かず  
伝えたい想い 暮れど 散りて 消える 春の 願いが

新たな世界が生まれ 育ち 消えゆく  
大切なものを守り その代償は全て

失うとも 守りたかった 人 たしたら  
許せ なくて

貴方を無くすくらいなら いらなかった世界が  
返しくて心 を閉らす 忘れられぬ 夏の 道影

たとえ 貴方 がいなくても  
残す 言葉 が先を閉らし 導く

終わりと いう 名の道を歩んで  
知り 着いた 桜 の元から  
想いを馳せ

愛してるという 言葉を 届けられぬ 世界で  
伝えられぬなら 願い 心に抱る 言葉 へと

旅の終業に 合わせて 道りにつく 夢なら  
幸せな時を 過ごした 昔と 笑い合うの  
だから 泣かないでね 笑顔 みたいの  
あなただけの







出处: オフィシャル通販特典 スリーブケース  
086



出处: オフィシャル通販特典 タベストリー  
087



初出:げっちゅ屋特典 タベストリー  
088



初出:ソフマップ特典 タベストリー  
089



初出: とらのあな特典 タベストリー  
090



初出: トレーダー特典 タベストリー  
091



初出：メロンブックス特典 タベストリー  
092



初出：駿河屋特典 タベストリー  
093



出处: 早期予約特典 色紙  
094



出处: 早期予約特典 色紙  
095

# クナド国記 スタッフインタビュー

鉄鬼と呼ばれる金属生命に蹂躞され、三度も文明が滅びた世界。発現した特殊な能力を手に、社会を取り戻すべく力強く生きる人々——。本作の重厚な世界観を描いた御影氏、そしてプロデューサーの石川氏に、本作にかけた挑戦や意気込みを、たっぷりとお聞きしました。

## 御影

本作「クナド国記」のメインシナリオライター。世界観、特殊能力、「言語」の存在、そしてシナリオテーマや、様々な視点で本作の魅力を感じていただきます。

—まずは、本作「クナド国記」制作開始の経緯をお聞かせください。

石川：2017年11月の「アイトリ」発表後、次回作を相談する中で「一人で執筆したい」という希望が御影さんからありました。予定より時間はかかりましたが、その間、「クアライブ」や「青春フラジャイル」を製作する中で進めていただきました。

御影：自分自身、過去に一人で作品を全て執筆するというのは初めてだったので、私自身、見てみたいという思いがありました。

—本作は人類の文明が三度滅んだ世界です。この世界観を採用した経緯をお聞かせください。

御影：一番の理由は、和風な世界観にしたかった＝御影の趣味になります。「好き」と「楽しい」はすべての土台になります。そこからテーマとして「世界と人との繋がり・技術や文明の進歩」を軸に、金属物質と文明を滅ぼす設定が必要になり、鉄鬼が生れました。

あと追加で——鉄鬼がいても人類が居なくならないように能力者が設定され、舞臺劇を限定するために人口削減のテーマ、それともったカントの世界観などを構築しました。

文明が複数回にわたって滅んだ理由は、これも単純に、想定したところ三度くらい滅びないと人類同士が思いやめなかったらダメですね（苦笑）。

—「カント」のモデルとなった地域はどこでしょうか。経緯で、もしも地理的なイメージがありましたら、お聞かせください。

御影：設定として神奈川県の江の島近辺を想定していました。西の大きな山が雄略、東が東宮になり、また、千年が経過しているのでも、地形も変わっている前提なので、本来なら富士山が見えるなどの要素は削除しています。

マア千年前と現代も地形は変わりませんが、あくまでも舞臺は「歴史と地続きのはずだ」と、どこもわからない道から来た土地としたかったためです。そのほうがユーザーさん（クアラ）でいいかなと決めました。

—人類を攻撃する金属「鉄鬼」が本編に登場する人類の敵となりました。これまでにない圧倒的なスケールの人類の敵を設定した経緯をお聞かせください。

御影：これもいろいろとなく、人類から文明を取り上げて、さらに「このくらい」でないと人類が滅んでくれないですね。あと、鉄鬼を知的生命体として「人」との交際の余地を一切排除したかったためです。補足として、鉄鬼については「空想的な設定（エイリアンの未知の

## 石川泰

Purple software 代表取締役にして、本作のプロデューサー。今回はおともに、本作の制作開始の経緯や、これまでの作品とは違った表現を取り入れた理由をお話いただきました。

鉄鬼などではなく、現実の科学で説明ができる最大エネルギーによって運用されている存在にする」というのも意識しました。

鉄鬼は「地球最大の自然エネルギーである（地熱）



を無知で運用できる存在」ですね。彼らの本質は、古来から存在する自然現象のほうに近いですが、それが、わずかながらでも意識を生み出したのが「無限のエネルギー」運用システムがシステムが代わりになりました（苦笑）。

—御影様が執筆した作品において何回登場した「言語」の設定が本作でも登場します。開発した世界観に「言語」の能力を持つ主人公やヒロインを採用したきっかけをお聞かせください。

御影：「言語」というか「人の思いや思いが実体化する」という設定や要素は、御影がケースに所属していたこの時代「FD」でも使っていたので、Purple software 様の作品に携わって以降から運用されていた表現です。

「言語」と「意志の強さが力に実体化する」、「聴けつけない」というわりややすがったので便利だし、特に主人公を魅力的に描くのに使ったという経緯になります。

—主人公の信は、人であり、鉄鬼であり、言語使いであります。現在の主人公像に至るまでの経緯をお聞かせください。

御影：信の主人公像の形成は、苦勞することはありましたが、世界観が特殊であるため、逆に、それを克服する主人公は可能な登場人物として現実化したんですね。

気がついたら、物語が始まる前に「信」が、意識的ではなく無意識的であること、シナリオの密度が高まるためにも、実は信にたいカントのテーマに、ひとつづつジョブとした反応をさせました。そのほうが話のテンポがよく面白いので。

—「言語」の他に様々な能力を持った登場人物が登場します。登場人物のほとんどを能力者としたことで感じた手ごたえや、苦勞した点がありましたら、お聞かせください。



—カントの住民たちは「真面目」な性格で、他人との交流が少なく、社会性を感じることが少ないという設定にしようとした。そこを、マスクやファッションが必須になってしまった現代社会の風習や、社会性を感じることが少ないという設定にしようとした。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

御影：「クナド国記」の企画はコロナ禍の前には始まっているので、意図したものではないですね。ただ、御影個人としては、コロナがなくても近い将来に「分断（人間や国ごとの心の余剰のなさ）」が問題化することは想定していました。

悪い部分は原案者のものです。」「言葉使い、統治者」という面では、最終的に被害のほとんどを自分が受け持つことを理解、覚悟したうえで、主人公のすることになった。本当に優しい子で、なにせ、彼が主人公と約束した「カント」に希望と幸せをもたらすには、「既存の権力の集積である春樹の改心」が必須です。

—世界の設定と、デザインにおいて意識した点をお聞かせください。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

—世界の設定と、デザインにおいて意識した点をお聞かせください。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。

御影：世界の設定は、メインヒロインに「カントの一般化」がひとりは欲しかったので、こゝ自然に設定されました。能力が格付という地味なものになったことも同時の理由ですね。





# クナド国記 書き下ろしショートストーリー

## 【夏姫と黒猫様の帰郷】

※注意：当ストーリーは本編の後日談です。  
主人公にネタバレを含んでいますので、クリア後にお読みください。

著：御影

### 【目録】

希望と幸せの味を知り、  
常人であれば二度と目覚めることのない、死という永遠の眠りからの、目覚め。  
正眼に表現すれば——無理やり現世に引きずりあげられた、  
「……おはようございます。私は夏姫と申します。  
目を閉じたまま、すべてのものに首（こうべ）を重ねる。  
そして、まぶたを開いた。  
私は特徴のない平原に立っていた。  
いや——ここは黒神が倒れていた場所か。  
鉄鬼の活動停止とともに、ここにあった黒神の残骸も消え去り、なにもない  
穏やかな土地になったのだろう。  
「どうやら、なにもかも、無事に終わったようですね」  
満足を見えつつ、同時に、首をかき上げてしまう。  
「そうであれば——私の役目は終わったはずなのに、どうして、死んだまま  
にしておいてくれたのでしょうか？」  
鉄鬼と人間との争いは終わり、  
兄様との約束を果たし、  
私の子どもたち、春と信、カントの民の未来はひらかれた。  
「悪い現世とはいいませんが——」  
違和感を感じ、自分の手を見おろすと、やけに小さかった。

身をひねって他の部分も確認すると、どうも、若返っているらしい。  
「えーと、この身体は、今の春よりも年下のようですが、は？」  
両や腕とまではいかないが、10年分ほど若く感じているようだ。  
おっぴろいで、そこそこ大きくなっている。  
「立ったまま見おろして、自分のつま先が見えたのは久しぶりですね」  
とにかく、今回の目覚めは、いつもと様子が違うようだ。  
「まあ、カントに戻りましょう。快く出迎えてもらえればというか……兄様  
に問答無用で斬り殺されなければいいのですが」  
ひとまづカントの外縁部まで瞬間移動しようとして——出来なかった。  
「あら？」  
失敗の理由がわからなかったが、あまり深く考えず、きちんと言葉として  
口にする。  
「「飛べ」  
これ以上ない単純な命令。  
しかし、今度にもも超えられない。  
「……言葉も使えない、と、自然との繋がりを失ったのでしょうか？」  
検討するが、自然との繋がりが絶たれているならば、復活させられるこ  
もなかっただろう。  
そして、ひとつの思いに私は眉をしかめてしまう。  
「そうか——そういうことですか」  
ようやく、シリアスに、今回の目覚めの意味を理解した。  
その身は「ただの人間」なのだ。  
すべての役割を終えたからこそ、極限の言葉使いゆえに得られなかった「人  
間としてのまっとうな人生を送るおす機会」が私に与えられたのだ。  
自然からの復讐。  
この若返りも、王宮の柵の木の下で、兄様と約束を交わした時代の肉体と  
して構築されたものだろう。  
「……ありがたいのですが……あの、言葉使いでもないのなら、私は、ど

うやってカントに戻るのでしょうか？ 徒歩？」「冗談でしょうか？」  
ぼやいてしまうが、自然が返事をしてくれるはずもない。  
自然の意志は、とにかく大局・長期的すぎて、人間目線で細かい配慮ま  
ではしてくれない。  
「とにかく、ここで考え込んでいても仕方ないので、歩きましょうか」  
私はカントへの道を歩き始める。

そして数時間後——

「……もう、無理、歩けませぬ」  
西の平原で唯一の人工物となる千手鳥居まで辿りついたとき、私はすでに、  
ぼろぼろになっていた。  
最初は、憧れていた常人の身体によってもたらされる実感——すなわち、  
以前は感じることも出来なかった風や太陽の日差しの感触に驚き、踏みしめ  
た大地の確かなことに感謝し、一歩ずつ蓄積する疲労や喉の渇きを面白いものだ  
と笑っていた。  
だが、自分の身とたたないうちに笑顔は引っ込んでしまった。  
生きるということは、歩くということは、辛い。  
鳥居の残骸に腰をおろし、草履を履いて足の裏を見ると、皮がめくれで血  
が出ている。  
「痛い！ 痛い！ 足の裏、あ、これ、ママというものが出来て、それが潰  
れているんですね！ すこい！ 初めての経験で新鮮です！ 痛いけど！」  
たった数時間、歩いただけで、こうなるとは思っていなかった。  
「はか——言葉で補強されていないと、常人の身体というのは、こんなにも  
もろいんですね」  
感動と痛みを同時に味わいながら、カントのある東を見つめる。  
カントから、この千手鳥居まで、徒歩で半日はどの距離があるか聞いていた。  
健勝の大人の話だ。  
今の私では——半日どころか、数日かかりそうだった。  
「……ご冗談でしょうか？」  
もはや、涙目に泣きだした。  
こうなるも、カントに帰るとどこか、生きて辿りつけるのかがあやしい状  
況だった。  
「長期戦となれば、目のあるうちに水と食べ物の確保をしなければなりません」  
これ以上の無理を認め、ここで一泊することを決定する。

足の痛みも不快ではないが、身体への影響としては、空腹と喉の乾きの  
ほうがきつかった。  
「まさか私が、春のように食べ物や水を必死で求めるとは想像もしませんでしたね」

冗談はともかく、空腹は数日もつたろうが、水を確保しなければ1日もも  
たず倒れてしまうはずだ——常人の身で生きるのは初めてだが、知識はある。  
しかし、上空を飛んだ記憶を頼っても、このあたりに水地はない。  
道の脇にはいくらでも水があるが——あれは塩水であり、飲んではいけない  
らしい。

「とにかく、水、水です——水と生じない！」  
私は両手のひらをあわせて器を形作り、ぶつぶつとつぶやく。  
言葉使いではない身となったようだが、言葉を使うための感覚は、ある。  
やめてやれないことはない——というより、やれなければ死ねぬ！  
「水です！ 水！ “水”！」  
何度目かの強い言葉に手助けがあった。  
両手のひらに、じわりと水が湧き出す。ほんの些細な量だが、私は手のひ  
らに顔を近づめて必死に吸い上げる。飲みとり、水分を飲み込んだ。  
「う、あ——はか——はか——あ、身体に染み渡る水分が、これは、なん  
と表現すればいいかわからない感動ですね！」  
他人の表現で「生き返る」という言葉をよく耳にしたが、実際に何かが生  
き返ったことがあるからすると、それ以上の素晴らしい感覚だと言えた。  
それから目が覚め、あわてて茶碗一杯ほどの水を生成して、すすり、  
なんと心も地獄。  
そのまま飲み込んでしまいたい疲労——身体が重さとし、思考の解れを見え  
たが、私は喉を足を引きずって鳥居の残骸を集め、鳥居な塩水と、夜の寒さ  
をしのぐための準備を整えた。  
「火！ 火！ 火は火です！ 燃えなさい！」  
上手く機能しない言葉のせいでも、間接的な私の声だけが平原に響き渡った。

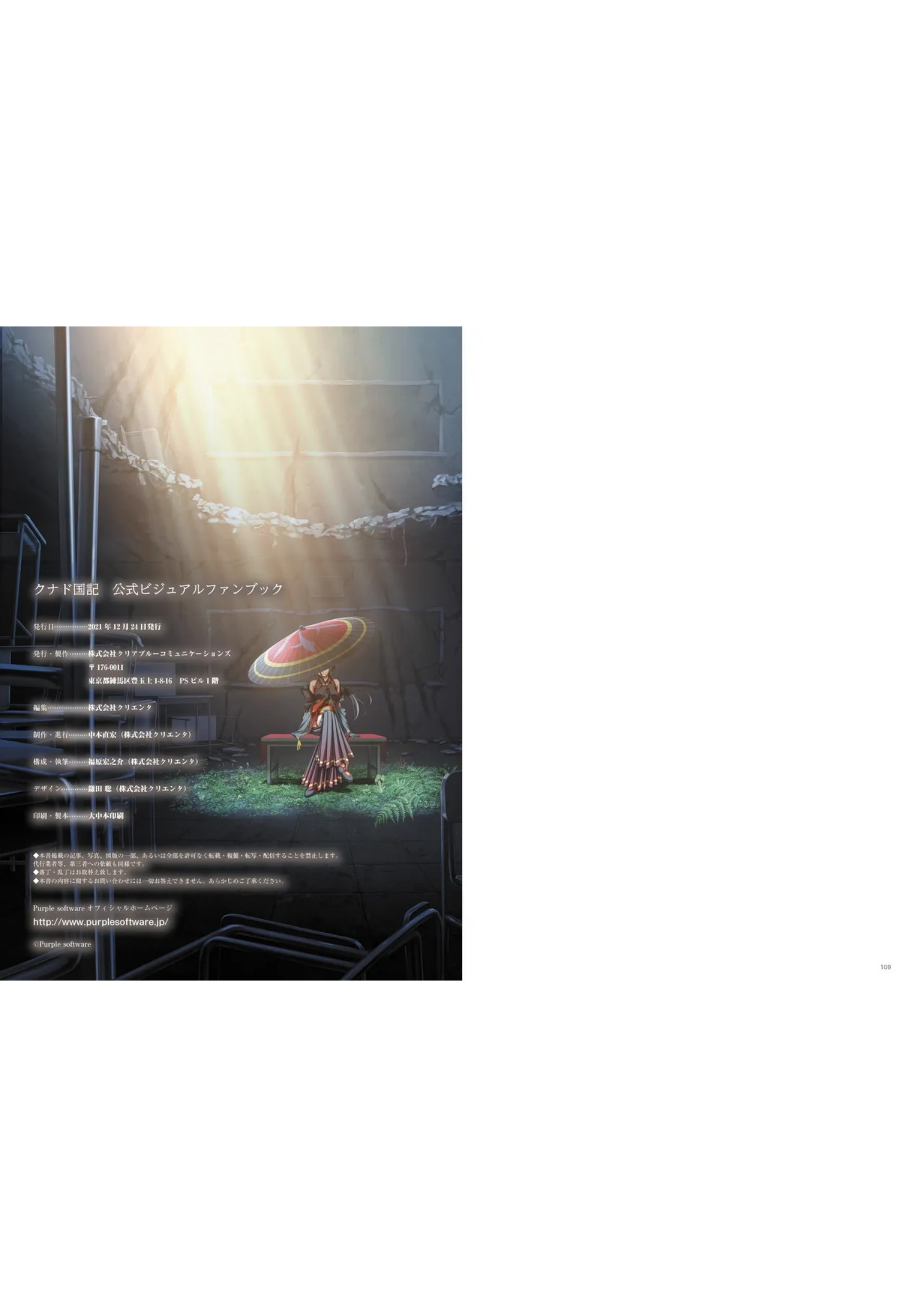
「ふふ……ふふ……これ、私、生きてカントに戻れますか？」  
目も暮れた夜。  
地面よりは少しだけマシな木材の上に横たわり、焚火を眺めながら、私は  
ぼんやりと気分を爽やかにする。  
「私がどのようとしている文化や文明とは正反対の、遠征に屈しない原  
始的な生活を送ることになるとは夢にも思わなかった。  
「……本当に夢であらばよかったのですが……」  
暗闇が怖いなど感じたのは、よほど子どもの頃以来のことだった。  
鉄鬼がもういないとしても——暗闇の中からは、いつ、どのような獣があら  
われるか、わからないではない。  
月はいかに半月より小さく、月明かりも乏しい。  
それでも平原を見渡すと、暗闇の中で夜行性の動物たちの輪が、キラキラ  
と輝いて見えたりもする。  
前は火には近づいてこないと言われていたが、今のこの身で、火や獣に勝  
てるであろうか……群れなら確実に食べられますね。まあ、それはそれで  
自然の摂理であり、彼らの血肉となるなら無価値な死ではありませんが」  
もともと言葉使として強く自然と繋がっていたこともあり、死のものに  
恐怖はない。

それは生命の循環の一部だ。  
ただ、暗闇は生理的な恐怖を生じさせる。  
ただだ、今の自分の無力さが怖い。  
「……です」  
横たわったまま、思わず出た水をすすり、  
お腹もすいた、胃がきゅうきゅうとしている……これが、ひもじいという  
気持ちなのだろう。  
と——突然、なにかの影が、焚火を燃やして寄ってきた。  
「わひっ！」  
無意識におかしな声をあげてしまう。  
なるほど、こういう声は恐怖や驚きで自然に出てしまうのだと感動もし  
つつ。  
上半身を起した私の目の前に、なにかの影が近づいてきた。  
「「や」  
「わ、え！？」 あ、神様？ 猫？」  
猫——焚火の明かりに近づいても、輪郭がわからないほどの濃黒の毛並み。  
それが、驚く私のひざ元に寄り寄り、身を寄せたくなる。  
「あらまあ、ずいぶんと人間に慣れておられますね。もともとカントで暮ら  
していらっしやしたか？」  
その背を物でながら声をかけてみる。  
もちろん、猫は返事をせず、膝手負まじに、すでに眠りにうつろっていた。  
猫は、明かりと人間の気配に引き寄せられ居る場所のための眠をとうとうと寄  
ってきたのかもしれない。そういう理由であっても、自分に寄り添ってくれる  
生物の存在は、私の心はあたたかくなる。









クナド国記 公式ビジュアルファンブック

発行日.....2021年12月24日発行

発行・製作.....株式会社クリアブルーコミュニケーションズ  
〒176-0011  
東京都練馬区豊玉上1-8-16 PSビル1階

編集.....株式会社クリエンタ

制作・発行.....中本直宏（株式会社クリエンタ）

構成・執筆.....福原宏之介（株式会社クリエンタ）

デザイン.....鐘田 聡（株式会社クリエンタ）

印刷・製本.....大中本印刷

- ◆本書掲載の記事、写真、図版の一部、あるいは全部を許可なく転載・複製・転写・配信することを禁止します。代行業者等、第三者への依頼も同様です。
- ◆高丁・乱丁はお取替え致します。
- ◆本書の内容に関するお問い合わせには一切お答えできません。あらかじめご了承ください。

Purple software オフィシャルホームページ  
<http://www.purplesoftware.jp/>

©Purple software

Purple  
SOFTWARE





Purple<sup>®</sup>  
S O F T W A R E



◆キャラクター&ストーリー

イベント鑑賞モードでしか見られないエッチシーンも含め、本作を大紹介！

◆舞台紹介

滅びた文明と人類再興の希望が入り混じる本作の世界を、場所別に紹介！

◆SD イベント

かこそ全てのカントに舞い降りたほのぼの空間！ SD イベントを網羅！

◆イラストギャラリー

アサヒナヒカゲ&克が描く、ヒロインたちの艶やかな姿の数々を掲載！

◆スタッフインタビュー&キャストコメント

本作に込めた想いを、シナリオライター・御影、プロデューサー・石川、そしてキャスト陣にインタビュー！

◆巻末 描き下ろしショートストーリー【夏姫と黒猫様の帰郷】

御影による本書特別ストーリーも掲載！  
物語の後日談、再臨した夏姫の“その後”が描かれる！



※本書は「クナド国記」のネタバレを含みます。  
ゲームをお楽しみいただいた後の閲覧を推奨いたします。